

ラボの世界

THE WORLD OF LABO

- 01 10代とともに ～人間にしかできないことを
- 04 2024夏の訪問 PHOTO速報
 - ・ニュージーランド交流, 北米交流, オレゴン国際キャンプ, 韓国交流
 - ・海外青少年受入れ
- 08 2023-2024 第36期ラボ高校留学 帰国しました
- 09 東京言語研究所 公開講座
～「すみません」や「I'm sorry」と言うとき、私たちは何をしているのか
ラボ・インターン紹介
- 10 Go Ahead! ～北海道・笹浪真之介氏
Information
- 11 ラボ国際交流50周年



川野明花莉 (中2/埼玉県・茂木津美子P)

Japanese magic!!

私のホストファミリーはいままでたくさんの受入れをしてきましたが、あやとりを見るのははじめてだったので、「まるでマジックみたい!!」とホストに言ってもらえて嬉しかった。——アメリカ・ケンタッキー州にて



10代とともに

竹内 薫

Kaoru Takeuchi

東京大学教養学部教養学科(専攻, 科学史・科学哲学)・東京大学理学部物理学科卒業。マギル大学大学院博士課程修了(専攻, 高エネルギー物理学理論)。理学博士(Ph.D.)。大学院を修了後、サイエンス作家として活動。物理学の解説書や科学評論を中心に200冊あまりの著作物を出版。『99.9%は仮説～思いこみで判断しないための考え方』(光文社新書)は、40万部を超えるベストセラーとなる。物理、数学、脳、宇宙、AIなど幅広い科学ジャンルで発信を続け、テレビ、ラジオ、講演会など精力的に活動。2016年春からは小学校レベルの民間学校「YESインターナショナル」代表も務める。



人間にしか できないことを

大学では理論物理学を学びました。コンピュータを使って、宇宙が誕生してからどのように大きくなっていったのか、どのような物質があるのかなどをシミュレーションしていました。

大学院を修了したあとは、広告代理店むけのプログラミングをして生計をたてていました。しかし、40代に入ってから執筆活動を中心にしています。そのほかに、横浜でインターナショナルスクールを、東京では「不登校プロジェクト」と銘打って、学校に通いづらい子たちの居場所にしつつ、勉強もするというスクールを運営しています。私もそこで、国語、数学、科学、プログラミングなどを教えています。

これが私の仕事ですが、じつはお金を稼ぐということがあまり得意ではありません。本を書くなど自分の好きなことをしながら、これから活躍していく子どもたちを育てることにやりがいを感じています。

日本で感じたカルチャーショック

小学3年生のとき、父親の転勤でニューヨークで暮らすことになりました。この頃は日本人学校というものがなかったので、ABCも知らない状態で現地の子どもが通うふつうの学校に行きました。しばらくは英語が聞きとれずたいへんな思いをしました。でも、

サイエンス作家、民間学校の運営、テレビ出演など、幅広い活動をされている竹内薫さん。ご自身の海外での経験や、AIとのつきあい方などをおして、この時代を生きていくうえでのヒントをたくさんいただきました。

半年もすると聞きとれるようになり、アメリカでの生活に慣れていったんです。

2年ほどして、また日本に戻ってきましたが、日本の学校では不登校になりました。アメリカに行ったときは平気だったのですが、日本に帰ってきたときにカルチャーショックを受けました。とても自由だったアメリカの学校に比べて、日本の学校はとにかく規則が多い。授業の形式も異なっていました。アメリカでは、いまでいう探求型の授業も行っていただのに対して、日本では教科書を覚えてテストで回答するという単調なスタイル。当時の私はその違いを受け入れることができませんでした。

でも、担任の先生の存在に救われました。科学を教える先生だったのですが、私に「学校に来なさい」とは言いませんでした。そのかわり、地元の「科学教室」に入れてくれました。そこに通いだしてから科学がおもしろくなってきて、いつのまにか学校にも通えるようになったんです。この経験が今の「不登校プロジェクト」につながっています。

学校には無理に行く必要はないと考えています。ただ、いつかは社会に出ていかなくてはならない。このプロジェクトをしていると、「一歩」が踏みだせなくなってしまったときに、自分が得意で好きなものが見つかったら、それを武器にすることで進んでいくことがで

きる子を見ることがあります。得意なことを通じて友だちや仲間ができて、仲間ができることによって人と話す機会ができ、前に進むことができるんですね。

芸術家になっていたかもしれない

得意なことで思い出すのは絵のことです。アメリカに行った当初、英語はできませんでしたが、外部講師の画家の先生に気に入られて、絵画の特別教室に入れてもらいました。ほかの子たちは通常の授業を受けていましたが、選抜された子だけは特別教室で絵を描くんです。さらに奨学金をもらえるかもしれないという話まで出てきました。あのままアメリカで暮らしていたら、芸術家の道に進んでいたかもしれません。しかし現実はそのようにはなかった。日本に帰ってきてから、その気持ちは粉碎されてしまったんです。日本での最初の図画工作の評価は「1」でした。アメリカでは奨学金がもらえるという話だったのに、日本に帰ってくると「1」になるわけです。

これには、アメリカと日本の学校の評価基準の違いがあると思います。先ほどお話ししたように、日本の学校では教科書に書かれていることを暗記して、テストにそのとおりに回答する。これは「言われたことをそのとおりに実行する」ための勉強です。なので、教

10代とともに



わったとおりにできた子にいい成績がつきます。一方アメリカでは、探究型の授業を取り入れ、その授業への意欲や姿勢なども評価されます。私が日本に帰ってきて、図画工作の評価が「1」になってしまったのも、その先生が意図する絵が描けなかったからなのでしょう。

数学には答えがあるもの？

最近では日本でも探究型の授業を取り入れる学校が増えていますが、いまま教科書を使った授業が主流となっています。もちろん、暗記することも必要です。漢字や九九が使えないといけませんからね。ただ、重要なのは覚えた漢字や九九をどのように使うかを考えることなんです。覚えた知識を知恵としてどのように使えるかがポイントですね。

みなさん数学は好きですか？ 苦手な人がいるとすれば、それは「教科書とテストがあったから」ではないでしょうか。受験にでてくる数学の問題は、じつはホンモノの数学ではありません。受験の数学には、かならず「答え」があります。しかし、数学者が日々向きあっている数学には答えがあるかどうかかわからないんです。答えがないかもしれないものを研究しているのが数学者なんです。

「自分は数学が得意だ」と思って大学の数学科に入った生徒が挫折してしまうことは多い。与えられた問題を解くことはできても、自分で問いをたてることができないんですね。自分で考え、追求し、時間をかけて納得するということが重要なのに、受験勉強だけをやっている、そのたいせつなプロセスを踏まないまま大学に入学してしまう。クリエイティブな思考を育てるという意味で、探究型の授業は必要だと考えています。

偏差値は日本だけのもの

大学院は、理論物理学を学ぶためにカナダのマギル大学に行きました。マギル大学をみ

なさんご存知ないかもしれません。でも、アメリカのハーバード大学は聞いたことがあるのではないのでしょうか？ たしかにハーバード大学はとてもいい大学です。しかし、北米にはほかにもたくさんいい大学があります。日本のように「日本でもっともすぐれている大学は東京大学です」というふうに海外では考えません。「法学を学ぶならこの大学がいいよね」「医学部はここがいいよね」というふうに、良い大学が並列的にあるという考え方なんです。日本では偏差値で「1位、2位……」というふうに決めていますよね。この偏差値という考え方はナンセンスだと思いますし、偏差値ということばも日本以外ではほとんど知られていません。

「外」から日本を見る

G7（先進7か国）のなかで、アメリカやカナダなど経済が成長している国がある一方、経済の成長が止まってしまっている国がひとつだけあります。それが日本です。デジタルにしても教育にしても、世界から取り残されてしまっているのが現状です。しかしそのことは、日本にいると気がつきにくいんです。この国はとても暮らしやすいですよ。安全で、安定した暮らしができている人も多く、病院だっていっぱいある。食べ物だっておいしい。しかし海外と比較してみると、経済のほかにもあらゆるものが停滞してしまっているんです。

英語を学ぶ必要性

日本がこれから、G7を引っ張っていくような国に成長するのか、もしくはこのまま衰退してしまうのかはわかりません。どちらにしても、日本と英語圏をつなぐ仕事というのは、いままこれからもたくさんあります。自分がどういう仕事につくかを考えるときに、英語を習得しておくことはとても意味があることです。また、通う大学を決める際にも、

日本語しか話せない場合は、基本的に国内の学校から選ぶことになりますが、英語を話せれば海外の多くの大学から選ぶことができますよね。

「AIがあるから、英語はできなくてもいいじゃん」という意見があります。これには一理あります。一生、日本から出るつもりがなければ、AIを使えば英語圏の人たちとも仕事をすることができると思います。英語で届いたメールを、AIで日本語に翻訳し、自分の日本語をAIで英語に変換して返信する……。これなら滞りなく仕事を進めることもできるかもしれません。ただし、海外に留学したり、海外で仕事をしたりする場合には、もちろん、自分で英語を話す必要がありますよね。

AIと仕事

これからの仕事を考えるときに、AIの進化を外すわけにはいきません。すでにわれわれに替わってAIが仕事をしている業種がたくさんあります。では、どのような仕事が残っていくのか？ 大きく分けてふたつあると考えています。ひとつは「AI関連の仕事」です。具体的には、AIエンジニア、AIの開発者、AIに命令を与える人、それからそれぞれの会社のなかでAIを統括するような立場の人です。

もうひとつは、これとはまったく異なる「心と関係する仕事」です。たとえば学校の先生の仕事には、「決まったことを教えること」と「生徒の成長に寄りそうこと」がありますよね。前者はAIにもできますが、生徒に向きあって心に寄りそうということは人間の先



10代とともに

生にしかできません。逆にいえば、決まったことしか教えられない先生は不要になっていくでしょう。ほかにも、精神科医や心理セラピストのような、人の心のケアをする仕事もAIにはできません。どうしてかという、いまのAIは心をもってないからです。意識がないんです。それはいかえると「自分に気づいていない」ということなんです。AIが将棋で人間に勝つということがあったときでも、AIは自分が勝ったことに気づいていません。というか、将棋をしていることすら知らないんです。今後、AIが心をもつ可能

性もありますが、現在の研究では、心をもつまでに数百年はかかるだろうと考えられています。

また、AIはゼロからなにかをつくることはできません。過去の膨大なデータを学習して、正確に処理することは得意ですが、データがなければなにもできないのです。新型コロナウイルスのような、未曾有の事態に直面したときに未来のことを考えて決断するのは、人間にしかできないことなんです。人間は未来にむかっていく生きものです。そのため重要なクリエイティブな思考をきちんと

身につけておきたいですね。

10代へのメッセージ

若くないとできないことがあります。私がおそらく50年かけてなにかをすることはできません。ですが10代のみなさんであれば、50年かけた大きな挑戦もできるんです。

一度の失敗で諦めないでください。ベンチャー企業の経営者の多くは一度は倒産を経験します。3年程度で会社を潰してしまう。けれど、ここからがおもしろいんです。失敗の経験をいかして、次の会社を運営していく。10代のみなさんにはそれができる時間があります。就職も同じです。最初に入社した会社が続かなくても、次で活躍できればいい。小さな失敗をいくつもくり返して、50年先にどうありたいかを考えてほしいのです。それができるのが10代の強みだと思っています。

(文責：編集部)



インタビューを終えて

[取材協力] 千葉県のラボ・パーティ
横尾こずえP, 平内恵子P, 大崎有里P, 高津正子P

横尾こずえパーティ

●石田真佑子(大3) 不登校児との関わり方にとっても興味があります。将来、教員になりたい身としては、ぜひ学校に来てさまざまな経験をしてほしいという気持ちもあるが、最適な学びは人それぞれであるなら、不登校となってしまった彼らの気持ちを尊重し、支援し続けることがたいせつだなと感じました。竹内さんがおっしゃった、「昨日の自分よりも進歩していればよい」。このことばかり、これから子どもたちと関わる際は、失敗しても次はどうすべきなのかをしっかりと考えていきたいです。子どもたちの小さな成長を自分のことのように喜び、なにかあったときはちょっと手を差し伸べてあげられるような教員になりたいとあらためて思いました。

平内恵子パーティ

●佐藤成海(高2) 私は小学生と中学生のときは、体育が全然できず苦手でした。ですが、高校で体育をやると、苦手な種目はありますが人並みにはできるようになりました。竹内さんの「日本の体育の授業では、みんな同じところで成績をつけるし、実際自分も体育の成績が悪く、好きではなかったけど、いまはカポエイラを楽しくやっている」という話を聞いてわかったことは、高校の体育は小・中学校までとは違って楽しくやっていたり、自分の得意なものを武器にして戦っていたということです。竹内さんがいま行っている不登校プロジェクトでは、生徒のなかには得意なものを見つけてそれをどんだん伸ばしていくような教育をしているそうです。私も、体育以外

でも得意なことを見つけていこうと思いました。自分も新たな知識を深めるために、「人間的な情報をネットワークである背景を考える。人と話す、疑問を考える」ということを、まずは身近な人からやってみようと思います。

大崎有里パーティ

●田山凜華(大1) 知らなかったことを多く知ることができました。AIが発展してきている時代に明治からある勉強方法はあっていないというお話を聞いて、授業を受けている側はふつうのことで当たり前だと感じているので、あっていないと感じる機会は少ないと思います。いろいろな国に行って、客観的に日本とほかの国を比べている竹内さんからこそできるのだと感じました。竹内さんのように日本とほかの国を比べるような大規模な発想はないかもしれないけれど、授業や日々を過ごすなかで些細なことから当たり前だと感じていることに疑問を抱いて比較することができたら自分の武器が見つかることにつながると思いました。

高津正子パーティ

●鹿住結和(高1) いま必要とされているのはAIができないこと、すなわちゼロからなにかを生み出すか、人の心を成長させる力、未知のものに対処する力だそう。これらは、人と関わりながらテーマ活動をして表現をつくりだし、問題が生まれても発想力と応用力で乗り越えていく、ラボで培われる力と多く共通しているように私は感じた。世界のなかで英語が私たちにとって大きな武器になるということもとても説得力のあるお話で、日本が停滞している状況だからこそ海外でも通用する英語は不可欠な道具なのだよくわかった。ほかにも数学が世の中にどのようにいかされているのかなど、自分たちがいま学んでいることと社会との関係性について理解できるようなお話をいただいたことで、勉強の意義がみえ、モチベーションがしぜんとあがった。このようにいまの自分とこれからの展望を結びつけて考えられるような機会をいただけたことは、将来への大きな糧になったと思う。

[取材日] 2024年6月

新しい家族や仲間ができました

今年の夏も、元気に国際交流が実施されました。受入れ団体の方々、ホストファミリーがあたたかく見守ってくださり、参加者のみなさんも大きな挑戦をしてきました。「ひとりだちへの旅」をした、忘れられない夏になったことでしょう。北米、ニュージーランド、韓国、そしてオレゴン国際キャンプの大冒険のようすを、ほんの少しだけご紹介します。

ニュージーランド交流

日程 7/23~8/15
参加者 60名

学校に通ったよ!



たくさん遊んだ!



北米交流 (アメリカ, カナダ)

日程 7/21~8/18

参加者 405名

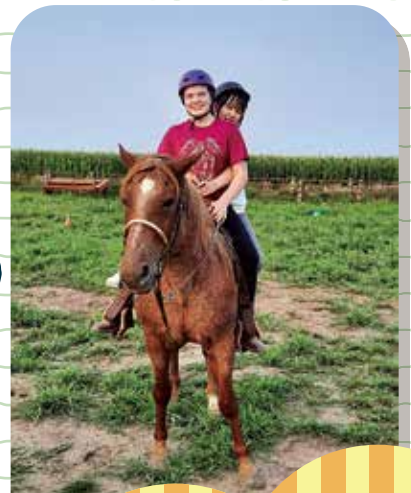
絶景!!



みんな大好き!



いろいろ食べた!



オレゴン国際キャンプ

日程 7/21~8/13
 滞在先 オレゴン州
 カリフォルニア州
 参加者 17名

プログラム

- ハイク、動植物観察、カヌー、化石採集、寝袋泊、博物館見学など多彩な自然体験、野外活動プログラム
- オレゴン州と周辺州の中高生と交流できるプログラム
- OMSI (オレゴン科学産業博物館) の専門インストラクターが対応



地球は広い!



韓国交流

日程 7/23~8/1
 参加者 17名

みんなで「いただきます」!



海外青少年受入れ

総勢78名が来日した夏の受入れプログラム。受入れ家庭で、パーティで、キャンプで、さまざまな交流が生まれました。また、今夏は中国との交流が5年ぶりに再開し、北京市月壇中学から11名が来日しました。

北米日本語研修
日程 6/14~7/12
参加者 12名

ラングブリッジ日本語研修
日程 7/13~8/4
参加者 19名

北米 (1か月)
日程 7/12~8/8
参加者 26名

韓国
日程 8/3~8/12
参加者 10名

中国 (北京市月壇中学)
日程 7/24~7/28
参加者 11名



ラボキャンプでも交流



2023-2024 第36期ラボ高校留学 帰国しました

アメリカ、カナダに
留学していた高校留学
生 15 名が、6～7月に



かけて帰国しました。帰国前に受入れ団体ごとに
現地で Evaluation Meeting を行ない、10 か月
の留学生生活をふり返りました。留学生活のようす
をファイナル・レポートから
抜粋してご紹介します。

Q. 授業が理解できるようになったのはいつ頃？ わからないときはどうした？

- ・2か月でだいたいの授業を理解できるようになりました。わからないときは先生、友だち、ホストファミリーに助けってもらったり、家に帰ってから復習をしました。
- ・はじめの3か月は先生が指示していることを聞きとれず、クラスメイトがしていることをマネすることしかできなかった。完璧に理解できるようになったのは6か月目くらい。
- ・とにかく隣の人と仲よくなって課題を教えてもらう、必要があれば見せてもらう、わからない単語は調べる、先生に聞く。



Q. 留学の目的は？ それは達成できた？

- ・新しい目標を見つけること、自分の新しい可能性を見つけること、たくさんの人に会って以前の価値観を破ること。目標は見つけたというか、一度諦めたことがやっぱり好きで、私のやりたいことなんだと気づいた。
- ・アメリカのふつうの生活を知ること。アメリカの高校生は、勉強以外にすることがたくさんあって、とても充実していた。車を運転する、働く、自分の未来を自分で決める、日本よりも自立している気がした。でも家族愛が強く、みんな仲がよかった。中学時代のホームステイでは知れなかったことをたくさん知ることができた。
- ・英語力を成長させる、視野を広げる、経験値をあげる、新しく挑戦したいことを見つける。英語はもちろん成長した。日本語で考えずに英語がそのまま出てくるようになった。また、日本の学校、アメリカの学校のいいところを見つけ、それらを融合させた教育ができればいいなと思い、言語を教える仕事に携わりたいと思うようになった。



2024-2025 第37期ラボ高校留学 出発しました

第37期ラボ高校留学生
17名がアメリカ、カナダ
へ出発しました。研修後、
ホストファミリー宅から現
地の高校に通う留学生活
が始まっています。



ASPECTグループの Evaluation Meeting

受入れ団体によって
詳細は異なります

- 6/1 ■集合
PM ■ラボ・カウンセラーと
個別面談(約30分)
■ファイナル・レポート記入

ホストファミリー、学校、
コミュニケーション、
異文化体験、サポート
体制、その他、の6項目
について記入

- 6/2 ■前日に続き、
AM ラボ・カウンセラーと個別面談
■ラボ・カウンセラーによる
WRAP-UP Session

ワークショップ "This is
Who I was in the U.S."
を実施。3つのワークを
もとに、自分の留学体験
を客観的にふり返る

- PM ■シアトル市内観光
■ラボ高校留学修了証授与

6/3
帰国



Q. 苦労したこと、つらかったことは？

- ・ホストファミリーに心をひらくまで時間がかかり、英語力もなかったため、話したくても話せないことがつらかった。悲しいことやつらいことだけでなく、うれしかったことなど日記にすべて書いて、家族に話しているかのようにした。
- ・食事についての価値観が合わないと感じたこと。一度ちゃんと話して、自分の気持ちを伝え、ホストも私ができるまで話してくれて、お互い納得がいく答えをいっしょに話した。
- ・友だちとなじめず、ホストファミリーにも遠慮してしまって孤独だったこと。慣れてきても授業が理解できなかったこと。それが原因でホームシックになり、本気で帰りたくなった。学校の先生やほかの留学生に相談したり、紙にいろいろ書きだしたり、とりあえず音楽を聴いてリラックスした。



公開講座 713 「すみません」や「I'm sorry」と言うとき、 ① 私たちは何をしているのか

古田 徹也 1979年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門は、ワイトゲンシュタイン研究、言語哲学、行為の哲学、心の哲学。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学）。『言葉の魂の哲学』（講談社）で第41回サントリー学芸賞受賞。その他の著書に、『それは私がしたことなのか』（新曜社）、『ワイトゲンシュタイン 論理哲学論考』（KADOKAWA）、『不道德的倫理学講義』（筑摩書房）、『はじめてのワイトゲンシュタイン』（NHK出版）、『いつもの言葉を哲学する』（朝日新聞出版）、『このゲームにはゴールがない』（筑摩書房）、『謝罪論』（柏書房）など。



「日本人はなんでもすぐに謝る（そして、そのくせ何もしてくれない）」——海外の方は日本人に対してしばしばそのような印象をもちます。そして、日本人もしばしばそう自認しています。ただ、これは粗雑な認識と言わざるをえません。

確かに、日本人は日常のさまざまな場面で「すみません」（および「ごめんなさい」等々）ということばを頻繁に用いますし、英語圏の国々を旅するときなどには、「sorry」ということばを多用しがちです。ただ、そうしたケースのすべてで謝罪という行為がおこなわれているとは限りません。

今回の講義は、「すみません」や「I'm sorry」という発話がそれぞれどのような（多様な）意味をもつのか、また、それぞれの意味の奥行き・ひろがりにはいかなる異なる点や共通する点があるのかについて、両者の比較も交えて探究することで、人間の言語行為の複雑さや奥行きを明らかにすることを試みました。

たとえば日本語の「すみません」が、謝罪だけでなく、誰かに呼びかけるときや感謝をあらわす際にも用いられるこ

とは、これまで言語学や人類学などの諸研究においてくり返し指摘されてきました。今回の講義ではさらに、大和言葉としての「すむ」の語源や、その意味の歴史的な拡張・変遷もたどりながら、なぜ「すみません」が現在のような多義性（多面性）をもっているのかについて、その背景を探りました。

また、英語の「I'm sorry」については、アメリカにおける「Sorry Works! 運動」を批判的に検討しながら、このことばの多義的ないし曖昧な用法の内実を掘りさげました。その過程で、「I'm sorry」と「すみません」が、〈過失などの承認を含んだ謝罪〉としての役割を果たしようという点で共通性を有するだけでなく、以下の役割を果たしようという点でも関連性の深いことばであることを確認しました。すなわち、〈ある重大な事態が生じたときに、たとえその原因や責任などが不明瞭な段階でも、その事態の成立に深くかかわる当事者としてみずからを位置づけ、もう一方の当事者とのコミュニケーションを行なう責任を引き受ける意志の表明〉としての役割です。

講義のあとには、田中太一氏（東京農工大学）からのコメントと応答、また、対面およびオンラインの参加者からの質問・コメントと応答が、およそ1時間半にわたって活発に展開され、非常に重要な指摘や観点をいただき、私自身が多くを学びました。あらためて、参加者のみなさん、関係者のみなさんに、深く御礼申し上げます。

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をおもちの方への「理論言語学講座」をはじめとして、毎年さまざまな講座を開講しています。公開講座はことばと関連した諸分野の第一線で活躍されている講師によって行なわれます。

2024
2025年度

ラボ・インターン紹介

新しく2名の
ラボ・インターンが
やってきます!

Emma Willingham

エマ・ウイリンハム



出身：アメリカ（ノースカロライナ州）

年齢：19歳

趣味：絵を描くこと、編み物、折り紙、手芸やアートをすること、マンガ

国際交流経験：2023年ラボ・ラングブリッジプログラムで来日

配属：2024年10月～2025年1月 九州支部
2025年3月～8月 北関東信越支部

Karter Buffington

カーター・バフィントン



出身：アメリカ（アイダホ州）

年齢：18歳

趣味：音楽、ギター、ドラム、ゲーム、読書、マンガ

国際交流経験：2023年ラボ北米青少年受入れプログラムで来日

配属：2024年10月～2025年1月 東京支部
2025年3月～8月 関西支部

英語で選択肢が広がる

笹浪真之介

水先人



1999年に中学生でラボ国際交流に参加するときは、まわりの人も行くし……という受け身な自分がいました。しかし、ホストファミリーがとてもよく迎えてくれて、さまざまな人と交流するなかで「もっと話せたら楽しいのに! もっといろんなことを知ることができるのに!」と気持ちが変わっていったのを憶えています。

進学の際、就職に強そうな海洋学部を選んだことが船乗りの道に進んだきっかけとなりました。船乗りといえばグローバルな仕事。当然英語は必要となりますが、ラボ活動や国際交流で培ったヒアリング力や経験からふしぎと不安はまったくなかったです。

水先人(パイロット)とは港に入港してくる外国船に乗りこんで、船長に適切な船位や安全な針路および速度などをアドバイスする仕事です。水先人になるためには選考試験を突破したのち、特定の養成施設

を修了し、国家試験に合格しなければなりません。

水先人は外国船にパイロットボート(小型のボート)で横付けして船を走らせた状態で乗船します。船にはブレーキが存在しないのでエンジンの回転数を落として海水との抵抗力を利用して速力を調整します。大型船は操船の自由が利かないことが多いので細心の注意を払う必要があります。

乗船は、時化しているときは2mくらいアップダウンしながらタイミングを見計らって本船の用意した縄ばしごに乗りうつるので、ここが業務のいちばん危険なシーンになります。乗船したらデッキからマンション3~4階程度の高さを階段で登り、船を操縦するブリッジにむかいます。息を整えて、「Good morning sir!!」船長とのあいさつから始まり、目視、レーダー、電子海図などで自船周辺の安全を確認しつつ、必要な情報を記載したカードを手渡し、船長とブリーフィングして嚮導(水先案内)を開始します。会話で注意していることはカッコつけて英語を話すことよりも早口にならない

ようにすること、きちんと理解してもらっているかを確認することです。船を安全運航させるためにはつねに情報共有して円滑に意思疎通できていることがとても重要となり、そのためのふんいきづくりもたいせつです。会話を続けるためには人や物事に興味をもち続けることがだいじだと思います。ラボっ子のみなさんは、ラボ活動を通じて個人としての意見をもち、それを発言できる能力をぜひ養ってください。

水先案内は基本的には24時間体制です。船の配乗によっては寝る時間もなく、たいへんな場合もありますが、とてもやりがいを感じています。水先人の定年は72歳です。身体は資本ですのでまずは健康第一、そしてこれからも安全運航できるよう努めて参ります。

ささなみ しんのすけ=関門水先区水先人会
(北海道・三坂桂子パーティOB)



Information

*東京言語研究所の講座についてはウェブサイトをご覧ください <https://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

国際交流親善事業

■第38期ラボ高校留学プログラム

選考試験

- ・9月 ELTiS2.0 試験(オンライン)
- ・10月 ELTiS2.0 試験(オンライン)
面談(オンライン、対面)

■海外からの青少年受入れプログラム(予定)

- ・ニュージーランド
日程:12月14日④・対面
~2025年1月4日④集合・帰国
- ・中国(上海外国語大学付属外国語学校)
日程:12月23日④対面
~2025年1月3日④集合・帰国
- ・第38期ラボ・インターン(2名)
日程:9月末~2025年8月中旬

■国際交流50周年記念の集い

(50th Anniversary Celebration)

日程:11月13日④~16日④

場所:アリゾナ州ツーソン

■理事会・評議員会

11月19日④

東京言語研究所

■理論言語学講座後期

※前期から開講の2講座に加え、新たに8講座開催

日程:10月7日④~

各講座19:00~20:40(100分)

■教師のためのことばセミナー(Zoomによるオンライン講義)

「ことばへの気づき」の対象となる言語知識やその獲得・使用などについての講義に加え、生成AIと言語教育との関連についての講義を2つ組み込みます。教員の方以外にも、教員志望者、社会人など、いろいろな背景をもつ方々にむけ、わかりやすく解説します。

○日程:10月13日④

講師:岡田伸夫(大阪大学名誉教授)

テーマ:日英語文法の違いを踏まえた英文法指導

導:二重目的語構文, 所格交替, 部分所有

者上昇, 非制限関係節などを例に挙げて

○日程:10月27日④

講師:森篤嗣(武庫川女子大学教授)

テーマ:学校国文法と学校英文法:

その構造と教育のあり方

○日程:11月17日④

講師:近藤泰弘(青山学院大学名誉教授)

テーマ:生成AIの仕組みと日本語文の分類

—教育の観点から—

○日程:12月1日④

講師:柳瀬陽介(京都大学教授)

テーマ:AI活用は、教育的な願いから始まるコミュニケーションである

○日程:12月15日④

講師:亙理陽一(中京大学教授)

テーマ:ことばの教育の本質を探る

大津由紀雄(慶應義塾大学名誉教授)との対談

※各回10:00~12:00(12月15日のみ12:40終了)

※全体コーディネーター:大津由紀雄(慶應義塾大学名誉教授)



1972年にアメリカ4Hとの間で始まった
ラボ国際交流は、コロナ禍による2年間の
中断を経て、50回目を迎えました。半世紀
におよぶ青少年国際交流をふり返り、4Hの各州コーディネーター
との親睦を深め、今後の国際交流の未来をともにつくりついでいく
記念の会が、11月にアリゾナ州ツーソンで開催されます。

SCHEDULE

- 11/13 - Opening Ceremony
- 11/14 - General Opening Session
- Conference Session
- 50th Anniversary Celebration Dinner
- 11/15 - Conference Session
- Desert Tour
- Culture Fair Night
- 11/16 - Departure

ラボ国際交流50周年